

平成17年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

| 団体名 | | 財団法人 武蔵野文化事業団 | | | | | | | |
|------|---|---|---------|---------|---------|-----|------------------------------------|------|---------------------|
| ① | 指標名 | 主催（共催）事業チケット販売 | | | | 目標値 | 完売 | 実績値 | 完売（115本） |
| | 過去の実績 | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 達成率 | 100.0% | 達成状況 | 未実施・未達成・ 達成 |
| | (単位:本) | 完売・104 | 完売・114 | 完売・114 | 完売・111 | | | | |
| | 取組内容 | ※17年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①アルテ友の会の会員数を引き続き8,500人以上を確保した。 ②市民が格安で質の高い音楽を鑑賞できるよう独自招聘事業を31本実施した。 ③特色あるPR用チラシを独自に作成し、会員及び顧客に定期的にダイレクトメールを送付した。 | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○アルテ友の会の会員数を維持し、招聘元を通さない独自招聘事業の実施や積極的な事業のPRにより8年連続で、主催(共催)事業(文化会館、芸能劇場、公会堂、スイングホール、松露庵、吉祥寺シアターで実施)のチケットを完売することができた。 ○今後も市民ニーズに対応しながら、市民文化の振興を図るため、管理する施設の特徴を生かした事業を展開し、完売実績を更に伸ばしていきたい。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●文化事業団では主催または共催の事業について、17年度においても目標どおりチケットの完売を達成し、8年連続で完売を続けている。 ●また、エージェントを通さない独自の招聘方法により、質の高い文化を安く会員に提供するなど、他の公共の文化施設には例を見ない取組を行い、高い評価を得ている。アルテ友の会の会員は8,500人前後で安定しており、チケットの完売に貢献している。 ●今後もさまざまな工夫により、引き続き市民文化の振興と市民サービスの向上を目指してほしい。 ●チケットを完売することを目標値としているが、他に適切な目標が設定できないか検討すること。 | | | | | | | | |
| ② | 指標名 | 事業費支出の抑制（吉祥寺美術館、吉祥寺シアター分除く） | | | | 目標値 | 事業収入に対する割合を85%以内とする | 実績値 | 88.8% |
| | 過去の実績 | | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 達成率 | — | 達成状況 | 未実施・ 未達成 ・達成 |
| | (単位:千円) | 事業収入① | 276,299 | 324,926 | 246,037 | | | | |
| | 事業費支出② | 237,797 | 294,479 | 218,537 | | | | | |
| | ②/① | 86.1% | 90.6% | 88.8% | | | | | |
| 取組内容 | ※17年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①独自招聘として、質の高い市民に受け入れられる内容の事業を、格安で実施した。 ②収益事業の増収を図るため、独自招聘事業を他の文化施設に売り込むネットワーク事業を実施した。 ③オペラ等の共催事業を実施し、増収を図った。 | | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○平成16年度と比較して、大ホールものの事業が22本から19本に3本減り、事業収入、支出とも減額となったが、事業費支出の抑制は率で1.8%減少した。 ○主催(共催)事業(文化会館、芸能劇場、公会堂、スイングホール、松露庵で実施)のチケットを完売するとともに、ネットワーク事業も積極的に実施している。 ○今後も格安なチケットを提供するための独自招聘事業の充実を図るとともに、事業経費の削減に取り組みたい。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●文化事業団では経営の自律化を図るために、事業収入を増やし、また事業費支出を削減することにより、自主財源の充実を図ることに努めている。17年度は大ホールを使った規模の大きい事業が減ったことなどにより、予定していた事業収入を確保できず、当初の目標を達成できなかった。 ●もっとわかりやすい指標を設定できないか検討すること。 ●17年度から文化事業団が各文化施設の指定管理者となったこともあり、今まで以上に「経営」という視点を持って、施設の管理をはじめとして、それぞれの自主事業にしっかりと取り組んでいく必要がある。 | | | | | | | | |
| ③ | 指標名 | 人材の育成（危機管理体制の強化） | | | | 目標値 | 危機管理に対応するため、固有職員3名以上上級救命士の資格を取得させる | 実績値 | 3名に資格を取得させた |
| | 過去の実績 | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 達成率 | 100.0% | 達成状況 | 未実施・未達成・ 達成 |
| | 固有職員 (単位:人) | 0 | 0 | 0 | 3 | | | | |
| | 取組内容 | ※指標、目標値の設定理由等について記入してください。 ①武蔵野市職員の研修の一環として夏に実施された上級救命士講習に、固有職員9名のうち3名を参加させた。 ②AED(半自動除細動器)を事務所受付カウンターに設置している。 | | | | | | | |
| 一次評価 | ※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○危機管理に対応するため、固有職員全員に3年間で上級救命士の講習を受講させて資格を取得させる計画を立てた。 ○17年度には目標どおり3名の職員に講習を受講させ資格をとらせた。 | | | | | | | | |
| 二次評価 | ●人の多く集まる施設の管理を行っているため、職員の危機管理能力を高めることは大変重要なことである。 ●3年間の計画を立て、順次、上級救命士の資格を固有職員に取得させることは必要なことであり、評価できる。17年度は3名に研修を受講させ、資格をとらせたので目標を達成したと評価する。 ●今後は危機管理のみならず、さまざまな面で固有職員の人材育成に取り組んでいく必要がある。 | | | | | | | | |